

クラス全員が教室で全裸になったあの日

2年A組の教室は、重く澁んだ空気に満ちていた。年に一度の身体測定の日、だが今年はその内容が異常だった。先生の冷静な声が静寂を切り裂く。「今年は全員、全裸で身体測定を行います。みんな、服を全部脱いでください。」

その一言で、教室は一瞬で騒然となった。静寂が一変し、驚愕と混乱が教室を支配する。女子たちは恐怖と嫌悪に染まった表情を浮かべ、男子たちは興奮と戸惑いが交錯する。

「全裸で？信じられない！」真帆の声が震え、目は大きく見開かれた。恐怖が渦巻き、指先が冷たくなる。「こんなの、絶対に許せない…」彼女の心は絶望感に満ちていた。自分が丸裸で同級生の前に立つ姿を考え、胸が締め付けられるように痛む。

「マジかよ…」高志が愕然とした顔で言うが、その裏にはやや興奮が隠れていた。「全裸で測定って、男女一緒に…！これ、面白そうだな…」

その声は興奮を隠せず、教室の緊張を一層高める。高志の頭の中では、女子たちの裸体が鮮明に想像され、下半身が熱くなる感覚を感じていた。

「絶対にやだ！こんなの許せない！」利奈の声は強く、怒りが溢れ出る。彼女の言葉は鋭く、女子の怒りが教室に広がる。「何かの冗談だと言ってください！」利奈の心は怒りでいっぱい、自分のプライバシーが無視されることへの抵抗感が強かった。

「全裸で身体測定なんて…」沙耶は顔を覆い、震えながらつぶやく。「見られたくない…」彼女の声は小さく、絶望に満ちていた。沙耶は自分の裸体が晒される恐怖から、涙が止まらなかった。

「どうしよう…」美里が小さく呟き、涙がぽろぽろと零れ始める。その言葉は、重い鎖のように彼女の心を引きずり下ろす。「こんな目に遭うなんて…」彼女の心は恐怖と羞恥に満たされ、クラスメイトの前で裸になる現実から逃れたい一心だった。

「早く脱ぎなさい！時間がないんだから！」先生の声が響き渡り、まず男子たちが最初に動き出す。高志は戸惑いながらシャツのボタンを外す。シャツの下には、彼の引き締まった、筋肉質な胸板が露わにされる。ズボンのファスナーを下ろすと、ズボンが床に落ちる。そして最後の砦、パンツを下ろす。彼の未熟なおちんちんが現れる。先端は皮に包まれていて、ぷるぷると震えている。「きゃー！」「うわ、本当に出してる」女子たちのざわめきや悲鳴が教室にこだまする。「女子見てんじゃねえよ…」と小さくつぶやき、恥ずかしさが声ににじむ。真帆は「気持ち悪い…」と顔を背けるが、彼女の視線はつい高志の性器に引き寄せられる。

健は慎重に、震える手でシャツのボタンを外す。彼の細い体が見え、ズボンを下ろし、パンツが床に落ちる瞬間、彼の小さく縮こまったおちんちんが現れる。細く、長めのそれは、空気にさらされ好奇の視線にさらされる。真帆はまたしても「気持ち悪い…」と顔を背けるが、利奈は好奇心に駆られて視線を投げる。「見るなよ…」と健が恥ずかしそうに言う。彼の性器は女

子の視線にさらされ、思わず小さく震えながら勃起し始める。

英樹は覚悟を決めてシャツを脱ぎ、ズボンとパンツを下ろすと、彼の包茎のおちんちんが見えた。「女子向こう向けよ...」と小さく言い、この状況に戸惑っている。利奈は「みんなおちんちん出してる...」と目を逸らす、沙耶は興味深く英樹のおちんちんを見つめる。「おちんちんだ...」と小声で呟く。英樹の包茎は半ば硬くなり、先端がチラリと覗く。

和也は静かに服を脱ぎ始める。彼のおちんちんも小さく柔らかいままだ。「見るなよ...」と小さくつぶやくが、沙耶は「みんなのおちんちん見ちゃった」と心の中でつぶ